

日本人になったユダヤ人

アーロン山川

令和7年2月1日
横浜歴史研究会 大瀬克博

アーロン山川

日本女性の心を虜にする生活用品ブランド「フェイラー」を作り上げた。

青年期

- 1921 ユダヤ人としてルーマニアに生まれる
- 1939 第2次世界大戦 パレスチナへ脱出
- 1941 英国軍に入隊 北アフリカ戦線へ
エルアラメインの戦いに従軍
- 1962 パリの高級香水店リッツに勤務
日本女性の山川和子と知り合う



訪日、結婚、フェイラービジネス

1970年、スーツケース1個で来日し山川和子と結婚、輸入販売会社モンリーブを設立する。ドイツ「フェイラー」の販売代理権を獲得し、全国を行脚し販売を開始する。販売活動は苦戦が続くが口コミで商品の良さが徐々に評価され販売を伸ばした。そしてタオルからバッグ、エプロンなど二次加工品の製作を開始し、大ヒットとなる。



モンリーブ経営ビジョン

「生活の中に芸術」をビジョンに掲げた経営を行う。日々の暮らしをより美しく、より豊かにしてくれる日用品フェイラーを世に出すのがモットー。

商品が世に出てお客様に「これが欲しかった」と気付いてもらえる商品開発に会社を挙げて取り組んだ。

アーロンは「現金主義」、「対等主義」、「公私の区別」、「男女平等」、「コンプライアンス」の方針で経営を行つた。

事業拡大そして事業譲渡

フェイラー商品の販売増大で事業は拡大、モンリーブ社の従業員は200名規模となり、フェイラーは made in Germany の世界ブランドになった。そしてアロンは大手総合商社への事業譲渡を決意した。

報恩事業

山川夫妻はフェイラーに縁をもらいビジネスを拡大できた。その恩返しに同社のあるドイツのホーエンベルク市へ寄付を行い高齢者介護施設「山川高齢者ホーム」の建設を決めた。施設はアロン没後の2017年に完成している。



Be together

生きとし生けるいける者も
昇天せし者も
いつも”一緒“
この世に在る時は助け合い
亡き人には感謝を

人生哲学

- ・ 人事を尽くして天命を待つ
- ・ 距離感を持つ
- ・ 時間の質を考える



星に帰る

87歳の時に病を得て要介護生活に入る。

2011年に姫路市にある和子の実家に移り1年半後に永眠、享年91歳。

参考文献

- 1) 「日本人になったユダヤ人」大江舜、(株)アートデイズ
- 2) 「運命の出会い、一枚の布」山川和子、朝日新聞社
- 3) 「ビジネスは見えないものを見る力」山川和子、(株)ランダムハウス講談社
- 4) 「インタンジブルが会社を変える」山川和子、PHP研究所
- 5) 「フェイラーと山川和子」横浜日独協会 YouTubeチャンネル

